

最新ユースケースを一挙紹介! 「ZENMU Virtual Drive」

大手を中心に採用進む「セキュアFAT PC」 VDIからの移行で得られるメリットは?

レスポンス低下、Web会議の不便さなど VDIの課題に直面する企業が増えている

PCの情報漏えい対策としてVDI(Virtual Desktop Infrastructure)を導入する企業は多い。だが、テレワークが普及した現在は、アクセスが集中するとネットワーク負荷が高まってレスポンスが遅くなる、Web会議の音声・映像の品質が低下するといった問題も聞こえてくる。業務の効率・生産性向上のために導入したアプリケーションやシステムが、インフラの問題で十分使えないようでは本末転倒といえるだろう。

そこでVDIに代わる選択肢として注目されているのが、一般

的な業務PCにセキュリティ機能を付加した「セキュアFAT PC」だ。ローカルPCのリソースを使用するため、ネットワーク帯域の影響は受けない。安全・快適に作業を進めることが可能だ。

ZenmuTechは、このセキュアFAT PCのソリューションとして「ZENMU Virtual Drive(以下、ZENMU)」を提供している。FAT PC内に仮想ドライブを設け、独自の秘密分散技術を用いてデータを「無意味化」。PC内とクラウド上に分散保管することで情報漏えいを防止するものだ。

多くの特長が評価され、大手を中心にVDIからZENMUへ移行する例が増えている。その活用メリットを4つの事例で見よう。

Case 1 国際的金融系企業グループ

金融ビジネスの必須条件となる 「FISC 安全対策基準」に準拠

国際的金融系企業グループの日本法人は、社内数万人のユーザーに対してVDIをオンプレミスで構築して提供してきた。最大の目的はセキュリティ強化だ。グループの金融業務を支える上で、システムの安全性が第一と考えた。

しかし課題もあった。オンプレミスなので当然、運用には手がかかる。折しもグローバル標準のセキュリティポリシーへの対応が必須になり、運用負荷がさらに高まりつつあった。また、ユーザーの利便性低下も課題だった。例えば会議室

へ移動する際などは、中断したセッションの再開に手間取ることが多く、現場から改善を求める声が上がっていたという。また、高額なコストを懸念するグループ会社もあり、大規模運用の難しさが顕在化していた。

そこで同社は、移行先にZENMUを選択した。ポイントは、金融情報システムの情報セキュリティ対策ガイドラインである「FISC安全対策基準」に準拠していたことだ。金融系企業グループのビジネスを十分支え得るものだと評価した。

アプリの動作も検証し、問題ないことを確認。導入後もユーザーアンケートを行い、機能拡張やヘルプデスクの対応改善などの要望を反映しながら、わずか半年間での利用定着につなげている。

Case 2 総合保険会社グループ

VDI同等のセキュリティ確保に加え ゼロトラスト導入の総コストも削減

数万人の従業員と約5万台のPCを有する総合保険会社グループは、全社標準の業務環境としてZENMUを導入した。

もともとこのグループでは、企業ごとにVDIやリモートデスクトップソリューションを個別に導入・運用していた。当初はリモートデスクトップに統一する計画だったが、操作性やパフォーマンスの点で困難と判断。ZENMUは、それら

の点で優れていたほか、VDIとの比較で大幅なコスト削減も図れると評価した。

加えて重視したのは、金融機関に求められるセキュリティを確保できるかどうかだ。この点ZENMUは、データの無意味化によって情報漏えいリスクを極小化できる。そこで同グループは、仮にPCが盗難・紛失にあった場合も、セキュリティインシデントではなく物損事故として扱う旨の方針を定め、監督官庁に報告しているという。

移行後はコストも大幅に削減。その分の予算をEDR製品やゼロトラスト製品などの導入に充てることで、一層の安全性向上を図っているという。

Case3 大手電機製造業グループ

データレスPCとの比較・検討の末
秘密分散技術のZENMUを選択

もともと一部の事業会社がVDIを活用していた。その会社は公共系の顧客を多く抱えており、セキュリティ上の要請を満たす必要があったためだ。しかし2020年からのコロナ禍で、ネットワーク起因のパフォーマンス低下が発生。Web会議の際はPC・スマートフォンの両方で参加するなど、不便な状態になっていたという。

そこで、VDIの代替策としてセキュアFAT PCを検討。データレスPC製品と並行してトライアル利用を行い、最終的にZENMUを選択した。

採用理由は、前提としてVDI同等の安全性を維持できること。また、Web会議などのアプリがスムーズに動くことや、ネットワークに依存するパフォーマンスの問題が解消できることだ。

加えて決め手になったのが、ローカルPCにキャッシュを残さない点である。ZENMUはキャッシュを含めて仮想ドライブに秘密分散するため、高い安全性を維持できる。一方、同時に検討したデータレスPC製品はローカルPCにキャッシュが残る。暗号化はされるものの、それでもグループのセキュリティポリシーを満たすことは難しいと考えた。

なおVDIに比べてコストが抑えられるため、移行に当たって稟議を新たに通す必要がない点も重要なメリットになったようだ。

Case4 大手運輸会社

パフォーマンスを大幅に向上し
現場ユーザーからも高い評価

この会社では長年、数万ユーザーを対象にVDI(DaaS: Desktop as a Service)を運用してきた。ところがコロナ禍で社員が一斉に在宅勤務を開始した結果、VPNの通信帯域がひっ迫。思うようにVDIを利用できない状況になったという。社員からは不満の声が上がったが、セキュリティレベルを下げるわけにもいかない。生産性低下にはある程度目をつぶるしかない状況になっていた。

そんな中、経費削減が全社の命題となり、VDIも見直し対象となった。実際、DaaSにはそれまで年間数十億円規模のコストがかかっていたのだ。

そこで着目したのがセキュアFAT PCである。ZENMUのほか、データレスPC製品も候補に挙がったが、ストレージなどのコスト負担や、オフライン時のセキュリティ性能などを考慮して、最終的にZENMUを選択した。

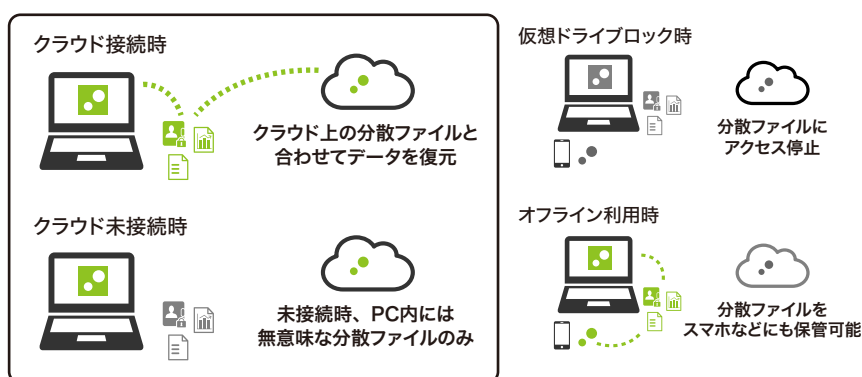
従来同等のセキュリティを実現しつつ、業務の利便性を大きく改善／高度化した点が本事例の特徴といえる。「セキュリティ製品を導入して、現場に喜ばれたのは初めて」という導入マネージャーの言葉が、その効果を物語っている。

ここまで4つの大手企業の導入事例を紹介したが、ZENMUは、より小規模な企業でも数多く利用されている。

例えば、シンクライアントシステムでローカルデータが扱えず、ユーザーの生産性に課題を抱える印刷会社や、FAT PC内のデータを暗号化していたが、暗号化では情報漏えい対策が不十分だとしてZENMUを導入したITサポート会社、資産運用会社の例もある。

情報漏えい対策はもちろん、ユーザーの使い勝手や、導入・運用コストの削減などを総合的に評価して、VDIに変わる「次の一手」を検討してもらえれば幸いだ。

図 セキュアFAT PCソリューション「ZENMU Virtual Drive」



データをPC内の仮想ドライブとクラウド上に分散して保管する「秘密分散技術」を実装。分散ファイルを結合したときのみデータを復元できるため、仮にPCが盗み出されても情報を守ることができる